

編集後記

東日本大震災への台湾からの支援につき、先月号で紹介させていただきました。今般の震災の影響による大変厳しい状況は今も続いており、それを乗り越える努力が続けられていますが、このような中で、海外からの支援は、日本を元気づけてくれるものだと思います。

台湾では3月18日夜のいわゆるゴールデンタイムに17社のテレビ局が生中継で日本の震災のためのチャリティー番組が4時間以上も放映され、その間に、20億円以上もの義捐金が集まりました。台湾の日本に対する関心の高さ、友好的な感情につき、改めて認識した方、或いは初めて知った方もいたのではないのでしょうか。当協会には、なぜ台湾がこれほどまでに日本に対して大きな支援を行うのかといった質問が寄せられています。日本と台湾の歴史的な関係の深さ以外の要因として以下のような私見を紹介しました。一つは、1999年に台湾中部で発生した大地震への日本の支援です。その際、日本は、いち早く緊急援助隊を派遣するとともに、資金・物資援助を行っています。なお、私自身も初めて知りましたが、世界各国の赤十字からの義捐金の内、日本赤十字からの義捐金はその8割を占めたそうです（台湾紅十字会長の発言）。台湾ではその際の恩返しをしようという認識が強いようです。もう一つの要因として、台湾での困っている人には手をさしのべるという「教え」です。台湾のテレビでは24時間繰り返し日本の災害の状況が流され、インターネット上には日本人の被災の情報があふれていました。ただでさえ日本に対して高い関心がある台湾の人にとって、これらの情報は、何とかしなくちゃならないといった思いを強くさせたのだと思います（台湾では、困っている人には手を貸すという習慣が身についています。バス等で、老人が乗ってくると若者は必ず席を譲りますし、日本人がガイドブックを片手に道に迷っていると必ず声をかけてきます。）。

当協会では、2010年3月に台湾で行った対日世論調査の結果を発表しました。一番好きな国はどこかという問いに52%が日本と回答しております。当時、私自身もこの高い数字を実感として受け取れませんでした。今般の日本の災害への台湾での高い関心を目の当たりにして、この数字が現実のものであったと認識しました。

台湾では、日本の原子力発電所の事故への懸念から、日本への渡航自粛や、日本製品・農産物の買い控えの現象が見られました。そのような中、4月下旬、台湾の国会議長にあたる王金平立法院長が、経済界のトップを帯同して訪日し、義捐金の供与を行うとともに、日本への渡航自粛勧告の緩和を発表されました。また、5月の中旬には、王院長自らが訪日観光客を帯同し北海道を訪問し、日本の安全性のアピールを行いました。台湾では復興に向かう日本とどのように向きあうかに関心が集まりつつあるような気がします。

台湾観光局によると、本年3月の日本人の訪台者数は、昨年同期比1.89%増であった由です。日本人の「親台」度も、地震・津波には負けていないようです。

（総務部長 亀井 啓次）